

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立長等小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

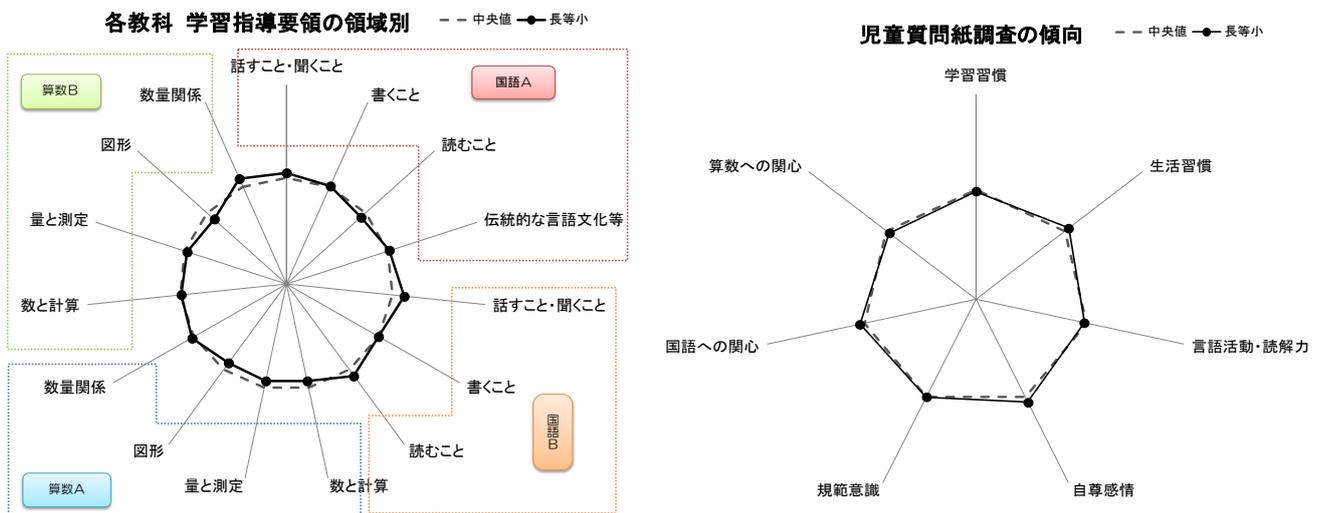
今年度の学力調査結果では、全国の平均正答率と比較してみると、国語、算数ともにすべての領域において良好な状況でした。特に国語A,B「話すこと・聞くこと」国語B「書くこと」「読むこと」、算数B「数量関係」の領域では、高い正答率となりました。ただ、算数A,B「図形」の領域では、他の領域に比べるとやや低い正答率となりました。一方、質問紙による学習状況調査結果では、「自尊感情」の項目が高く、「算数への関心」の項目は、やや低い結果となりました。

《強み・弱み》

国語は、話す順序や構成を工夫し、適切な言葉遣いで話したり、話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、感想や意見を述べたりする「話すこと・聞くこと」に特に強みがあり、他の領域においても概ね強みが見られます。しかし、算数の「図形」については、図形の構成要素の理解に弱みがあります。また、将来に夢や希望を持ち、失敗を恐れずに挑戦したり、物事を最後までやり遂げる喜びを感じたりする自己肯定感や自尊意識の高さには、強みが見られますが、「算数への関心」に少し弱みがあり、算数の勉強が好きで問題を解いてみようとする子どもたちの学習意欲については、他の項目に比較してやや課題があります。

◇強み・弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

- ・算数の「図形」の指導に当たっては、日常生活の事象を図形の約束や性質と関連づけて考える活動の充実に努めたり、具体物を用いて、実際に確認する活動を取り入れたりしながら、個に応じた指導の充実を行います。
- ・日々の授業の中で、全ての子どもたちの能力を最大限に引き出し、子どもたちが充実感や達成感を十分味わい、自ら主体的に学ぶ力を高めるための授業改善を目指します。